

**信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果**

プログラム名	オックスフォード大学における人文学短期研修プログラム	
学部・研究科名	人文学部	
プログラム実施期間	2017年8月29日～9月11日	
研修先(国・都市・施設名)	イギリス・オックスフォード・オックスフォード大学	
参加者数	： 14名	知の森からの支援者　： 14名
プログラム概要	本プログラムは、グローバル時代に対応する人文学を体現した人材を育てることを目指し、世界有数の研究機関であるオックスフォード大学を有するオックスフォード市内において、人文学に特化した学習プログラムを学び、最終日にその成果を英語によるプレゼンテーションという形で示すことを参加学生に求めている。	

実施状況・成果

今年度の同研修についても、昨年度同様、CIE Oxfordとの事前の打ち合わせにより研修プログラムを緻密に練り上げ、オックスフォード大学の現職の教員を含む優秀な講師陣による「美術史」「知識の哲学」(8月31-9月4日)、「心理学・社会学」「生き方としてのビジネス」(9月4-5日)、「英文学」「ジャーナリズム」(9月6-8日)という多彩な授業内容を用意した。

参加学生たちは全員、午前中、長い伝統を誇るオックスフォード・ユニオンならびにジーザス・カレッジの施設内において、これらの授業を聴講し、英語で講師との質疑応答を行った。また、午後には、講師が引率する形で、オックスフォード市内の博物館や歴史記念物を見学する共に、各自のプレゼンテーションに関する打ち合わせ等が行われ、学生たちは自分たちの足と目を使って動き回り、英語の資料を探し、博物館などで各々の調査を行った。プログラム最終日には、随行の伊藤教員、野津教員の立ち合いのもと、学生全員が各々15分ほど英語のプレゼンテーションを行い、英国人教員たちからの質疑に応じた。プレゼンテーションでは、パワーポイントなどを有効に活用しながら堂々と発表する学生の姿に引率教員自身感銘を受けたが、彼らのプレゼンテーションについては、複数の大学を見てきた現地の講師陣からも、そのレベルの高さが激賞された。

昨年度同様、学生たちは東京大学、青山学院大学、立教大学が合同で行うサマースクールの最後を飾るクライスト・チャーチでの壮大な晩餐会に招待して頂き、オックスフォード大学のアカデミックな雰囲気を感じることができた。フォーマルな衣装に身を包み、伝統と格式のあるこの場所での晩餐を体験できたことは、彼らにとっても忘れられない思い出になったに違いない。また、伊藤教員及び野津教員の随行により、ケンブリッジ市内では史跡見学や舟遊び(パンティング)を、ロンドンでは大英博物館、シャーロックホームズ博物館をはじめとする文化遺産巡りなどを、体験することができた。

また、今年度は、伊藤先生の特別なご努力により、わが校の協定校でもあるバス・スパ大学とバス市内を見学することが出来た。これらの体験は、学生たちにとって、今後長期留学も期待できる協定校とその町の雰囲気を具体的に知る重要な経験であったものと思われる。

学生の声①-人文学部　学生

私は自分の英語力には全く自信がなく、また海外に行くのは初めてだったということもあり参加を迷っていましたが、今は本当に参加してよかったと感じています。二週間の研修ですので、語学力が劇的に伸びるとは言えませんが、オックスフォードという歴史のある街で過ごすという経験は私にとってとても貴重で価値のあるものでした。授業も興味深いものばかりでした。先生方はこちらが授業についてきているか確認して進めてくれるので、英語で進められる授業もよく理解出来ます。週末の観光や、ホストファミリーとの食事はただただ楽しかったです！

学生の声②-人文学部　学生

私は3年ということもあり、今回の研修に参加するかどうかとても迷いました。けれども、オックスフォードの先生方の授業を受けたり、初めてホームステイをしたりと日本には経験できないような多くのことを、経験することができました。参加してよかったと心から思います。

CIE校長ジョン・ハドソン先生の授業風景



クライストチャーチでのディナー

